

少年犯罪はなぜ生まれるのか？

～ 闇勢力との接触が少年を非行に走らせる ～

2006年 1 月 6 日 (金)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: vermeer@pa3.so-net.ne.jp

少年が非行や犯罪に走る理由については、これまで犯罪学者や社会学者によって様々な理論や仮説が唱えられてきた。

代表的な学説をいくつか紹介すると、まず、アメリカのマートン (Merton, R.K.) は「アノミー論」を唱えた。「アノミー (anomie)」という言葉は、もともとは、社会学者のデュルケム (Durkheim, E.) が「社会規範が無い状態」という意味で使っていたものだが、マートンの定義する「アノミー」は、これとは異なり、「目標と手段の不均衡」のことを指す。「アノミー論」のエッセンスは、「社会的な目標を達成するための正当な手段を持たない少年・少女が、非行や犯罪によって目標を達成しようとする」というものだ。

目標は社会的に広く共有されている価値観に基づくもので、たとえば、大金持ちになるとか、マイホームを持つとか、芸能人と結婚するとか、内閣総理大臣になるとか、会社の社長になるといった類である。しかし、現実の社会において、これらの目標を達成するための手段 (高度の教育や就業機会など) は、すべての人に対して平等に与えられているわけではない。この結果、目標を達成するための合法的な手段を欠く少年たちが、目標達成のために非行や犯罪の世界に入っていくことになる。たとえば、お金持ちになりたいと思えば、普通の少年は、いい大学に入って、いい会社に就職しようと一生懸命勉強するだろう。しかし、きちんとした教育を受けられない少年たちのなかには、窃盗や詐欺といった犯罪によって手っ取り早くお金を稼ごうと考えるものが出てくる。

「アノミー論」の妥当性は多数の実証研究によって証明されており、日本でも、「アノミー論」を支持するいくつかの分析結果がある。たとえば、市川・中村 (1998年) は、「人口規模の大きい世代は、進学、就職などにおいて過当競争を強いられるため、十分な教育機会が与えられず、非行者の比率が高くなる」という結論を導き出している。また、大竹・岡村 (2000年) は、少年犯罪を引き起こす重要な要因として、求人倍率を挙げており、就業機会の欠如が少年を犯罪に走らせる引き金になると結論づけている。

また、アメリカのサザランド (Sutherland, E.H.) は、社会で少年犯罪が発生する大きな要因として「分化的接触理論」を唱えた。この理論によれば、少年は成長していく過程において、主流の上位文化とは別に、枝分かれした下位文化 (サブカルチャー) にも接触する。そして、接触したサブカルチャーがたまたま違法行為を容認・肯定するような内容であったとすれば、その影響を受けて少年は犯罪者へと変貌することもある。要するに、少年非行・犯罪は「朱に交われば赤くなる」という諺どおりに発生するということだ。

「分化的接触理論」は、暴力団などの闇勢力が、少年を非行・犯罪の世界に引きずり込む可能性を示唆している。実際、闇勢力の誘惑がきっかけとなって、地下経済の世界に入ってくる少年・少女は

少なくない。たとえば、アメリカのロサンゼルスやニューヨークといった大都市では、女優になることを夢見てたくさんの少女が集まってくるが、そうした者の多くは途中で挫折する。そこにマフィアが近づき、傷ついた少女たちにドラッグの使用を薦め、少女たちを麻薬漬けにしてしまう。ヘロインやコカインを常用するようになると、ドラッグを入手するために膨大なお金が必要となり、手っ取り早お金が稼げるという理由で売春婦へと成り下がっていくのだ。売春と麻薬の関係を研究したゴールドスタイン (Goldstein, Paul J.) は、アメリカの売春婦の7割程度はなんらかのかたちでドラッグに手を染めているとの調査結果を報告している。

アメリカのドラッグ密売グループは、少年たちを手っ取り早く自分たちの世界に引きずり込もうという場合、最初にスポーツのスター・プレイヤーやリーダーの学生に目をつけるという。彼らを売人に仕立て上げれば、彼らに憧れる少年たちもその真似をして、売人になっていくのだ。

さらに、上記の「アノミー論」と「分化的接触理論」の融合を図ったのが、「非行サブカルチャー論」や「分化的機会構造論」と呼ばれる学説である。アノミー(目標と手段の不一致)が存在する少年は、必然的に違法行為を肯定するようなサブカルチャーへの接触機会も増える。アノミーの存在とサブカルチャーへの接触という2つの要素がそろったとき、はじめてその少年は犯罪を実行に移すようになる。現在は、「非行サブカルチャー論」や「分化的機会構造論」が、少年犯罪を説明するもっとも有力な説とされている。